

平成27年度事業

教育委員会の事務に関する
点検評価報告書

平成29年2月

男鹿市教育委員会

《 目 次 》

1	点検・評価の趣旨	1
2	点検・評価の方法	1
3	学識経験者の知見の活用	2
4	教育委員会議の開催状況	2
5	教育委員会議の審議状況	2
6	教育委員会議以外の活動状況	4
7	平成27年度重点事業の点検・評価	
	I 【教育環境の整備】	
1	学習教室推進事業	5
2	小学校体力向上育成事業	6
3	学校施設耐震化等事業	7
	II 【地域間交流の機会充実と国際交流の推進】	
1	男鹿・春日井市児童交流学習事業	8
2	国際教養大学との交流事業	9
	III 【生涯学習の推進】	
1	地区公民館施設改修等事業費補助金	10
2	第28回秋田船方節全国大会	11
	IV 【生涯スポーツ活動の推進】	
1	男鹿駅伝競走大会	12
	V 【芸術・文化・伝統の保護・継承】	
1	史跡脇本城跡 城歩き シンポジウム開催事業	13
2	日本ジオパーク再認定審査	14

1 点検・評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正(平成20年4月1日施行)され、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされました。

この報告書は、同法の規定に基づき、本市教育委員会が、男鹿市総合計画に基づく重点事業の取り組み状況について点検、評価を行い、課題の方向性を明らかにすることにより、教育行政の一層の推進と市民への説明責任を果たしていくために、平成27年度に執行した事業について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに市民の皆様公表するものです。

2 点検・評価の方法

本市教育委員会は、毎年度、教育目標を掲げ、その目標の実現に向けた重点事業を実施しており、これらの事業を対象に教育委員会自らが事務の執行状況について、点検・評価を実施したものです。

なお、平成28年度の点検・評価は、平成27年度事業を対象に実施しました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

男鹿市教育長・教育委員名簿 (平成27年度在籍)

職 名	氏 名
教 育 長	鈴 木 雅 彦
教育長職務代理者	目 黒 恵 子
委 員	角 崎 紘 二
委 員	清 水 富 喜 子
委 員	山 本 貴 紀

3 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律 26 条第 2 項で、教育に関し学識経験者を有する者の知見の活用を図ることが求められておりますので、本市教育委員会では、教育に関し学識経験を有する次の 2 名の方から、意見をいただきました。

○秋田県立男鹿海洋高等学校長 平川 信重 氏

○秋田県立男鹿工業高等学校長 東海林 大樹 氏

4 教育委員会議の開催状況

開催日	会議	場所
H27. 4. 2	第 3 回教育委員会会議	本庁舎 3 階第 1 会議室
H27. 4. 20	第 4 回教育委員会会議	本庁舎 3 階第 3 会議室
H27. 6. 8	第 5 回教育委員会会議	本庁舎 3 階第 1 会議室
H27. 8. 20	第 6 回教育委員会会議	本庁舎 3 階第 1 会議室
H27. 10. 7	第 7 回教育委員会会議	本庁舎 3 階第 3 委員会室
H27. 11. 10	第 8 回教育委員会会議	本庁舎 3 階第 1 会議室
H28. 2. 4	第 1 回教育委員会会議	本庁舎 3 階第 1 会議室
H28. 3. 15	第 2 回教育委員会会議	本庁舎 3 階第 1 会議室

5 教育委員会議の審議の状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条及び「男鹿市教育委員会事務委任規則」第 2 条の規定に基づき、平成 27 年度は議案 15 件の審議と、報告事項等 21 件、合計で 37 件を取り扱いました。

(1) 議会の議決を経る議案に関する意見の申し出に関すること。 8 件

○男鹿市立学校設置条例の一部を改正する条例について

○男鹿市教育研究所の廃止に伴う条例等の廃止等について

○平成 27 年度教育費 6 月補正予算 9 月補正予算 12 月補正予算 3 月補正予算

○平成 28 年度教育費

(2) 教育委員会規則の制定及び改廃及び一部改正に関すること。 7 件

○男鹿市立小中学校管理規則の一部を改正する規則について

○男鹿市障害児就学指導委員会規則の一部を改正する規則について

○男鹿市立小中学校通学区域に関する規則の一部を改正する規則について

○男鹿市学校運営協議会の設置等に関する規則の制定について

○男鹿市立学校給食共同調理場等管理規則の一部を改正する規則について

○男鹿市ジオパーク学習センター管理規則の一部を改正する規則について

○男鹿市社会教育指導員設置規則を廃止する規則について

(3) 教育施策の基本方針の決定に関すること。 **2件**

- 平成28年度学校教育の基本方針（案）及び重点目標と努力事項（案）について
- 平成28年度生涯学習及び社会体育の重点目標と施策の方向（案）について

(4) 教職員、事務局職員等の人事に関すること。 **1件**

- 平成28年度 職員の人事異動について

(5) 報 告 事 項 等 **19件**

- 男鹿市教育委員会の体制及び組織機構について
- 教育長職務代理者の指名について
- 旧北磯小学校校舎の火災について
- 男鹿市総合教育会議設置要綱（案）について
- 教育の振興に関する施策の大綱（案）（男鹿市教育大綱）について
- 男鹿市教育大綱の推進に係る取組状況について
- コミュニティ・スクール事業について
- 船川第一小学校校舎棟大規模改修工事の請負業者について
- 船川第一小学校・船川南小学校統合準備委員会第一回総務部会の開催状況について
- いじめの現状と未然防止対策について
- 不登校の現状と支援について
- 教育委員会の事務に関する点検評価報告書について（2回）
- 男鹿市個人演説会の施設の程度及び納付すべき費用の額の一部改正について
- 男鹿市総合計画（素案）について（教育委員会関係）
- 男鹿市スクールバス運行管理規定の一部を改正する規程について
- 男鹿市指定文化財の指定について
- 強風による男鹿市民文化会館屋根の被害状況について
- 「来訪神行事」ユネスコ無形文化遺産提案について
- 市議会定例会での一般質問について（教育委員会関係）（2回）

合 計 37件

6 教育委員会議以外の活動状況

① 入学式（入園式）

月	日	学 校 名
H27	4. 7	船川第一小学校、船川南小学校、脇本第一小学校、船越小学校 北陽小学校、払戸小学校、美里小学校 男鹿南中学校、男鹿北中学校、男鹿東中学校、潟西中学校
H27.	4. 8	若美幼稚園

② 卒業式（卒園式）

月	日	学 校 名
H28.	3. 11	男鹿南中、男鹿北中、男鹿東中、潟西中
H28.	3. 15	船川第一小、船越小、払戸小
H28.	3. 16	船川南小、脇本第一小、北陽小、美里小
H28.	3. 17	若美幼稚園

③ 学校訪問

月	日	学 校 名
H27.	5. 27	船越小
H27.	5. 28	潟西中
H27.	6. 1	船川南小学校、男鹿南中学校
H27.	6. 3	男鹿東中、北陽小
H27.	7. 6	払戸小、美里小
H27.	7. 9	男鹿北中、北陽小、
H27.	7. 13	船川第一小、脇本第一小

平成27年度重点事業の点検・評価

I 【教育環境の整備】

(1) 学習教室推進事業

方針・目標	中学校3年生及び小学校6年生を対象に、学習内容の更なる定着と学力向上をめざす。
目標値	○参加率 <ul style="list-style-type: none"> ・土曜学習教室 (20%) ・光通信学習 夏季講座 (50%) 冬季講座 (30%) ・中学準備教室 (20%)
事務事業の実績	平成22年度から実施してきた各中学校区の公民館を会場としての土曜学習教室は、9月から11月までの毎週土曜日に12回実施。 平成25年度から実施してきた光通信学習教室は、市内4中学校と秋田予備校を光回線をつないだ夏季講座(夏休み中10日間)と冬季講座(冬休み中6日間)を実施。それぞれ、市内の中学3年生(希望者)を対象に、予備校の講師による学習教室を開催した。 平成23年度から実施してきた小学校6年生を対象にした中学準備教室は、卒業直後の2日間実施。進学先の中学校を会場に、秋田大学生11名の支援を得て開催した。
点検評価	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (説明) ○参加率 <ul style="list-style-type: none"> ・土曜学習教室 (29.4%) 前年比+11.4% ・光通信学習 夏季講座 (62.3%) 前年比+30% <li style="padding-left: 20px;">冬季講座 (32%) 前年比+7.1% ・中学準備教室 (29.5%)
点検による事業の課題	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 (具体的な課題及び取組) ・前年度までの課題やアンケートを基に、10月から12月の火曜日と木曜日に実施していた後期講座を廃止し、土曜学習教室の回数を増やして充実させた。
教育委員評価	中学3年生にとって、希望すれば誰でも学べる貴重な学習の場として定着してきた。学習の効果を十分理解させ、積極的に参加者を増やす取り組みを期待する。小学校6年生を対象とした中学校準備教室は、対象者の2割の参加率である。スムーズに中学校生活をスタートさせるため、学習指導はもとより基本的な生活習慣指導も含め中学校との連携を図りながら、より多くの対象者が参加するためにも受講内容の充実を図って欲しい。
学識経験者意見	学習塾等の環境に恵まれない児童・生徒にとって、土曜学習教室・光通信学習・中学準備教室等の支援は大変有用であると考えます。講座の内容が受講者のニーズ、レベルに合わせしっかりと広報すれば参加者も増えると思われます。学力のさらなる底上げの意味でも期待したい取り組みです。

I 【教育環境の整備】

(2) 小学校体力向上育成事業

方針・目標	本市小学校児童の体力向上及び教員の指導力の向上をめざす。
目標値	新体力テストで県平均を上回っている種目が、小学校6年生の男女それぞれで半数以上である。 小学校6年生で2.5m以上泳げる児童の割合が60%以上である。
事務事業の実績	市内7小学校3、4年生を対象とした泳力育成水泳教室をB&Gプールで各校4回実施するとともに、陸上競技力向上に必要な専門的指導技術を有する外部指導者を市内7小学校に年2回派遣するなど、次の事業を実施した。 ① 泳力育成水泳教室 ② 第40回市小・中学校学年別水泳大会（小44名、中9名が参加） ③ 男鹿市小学校陸上大会に向けた市内小学校陸上巡回教室 ④ 男鹿市小学校陸上大会における指導者の派遣
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (説明) ○新体力テストで県平均を上回っている種目数 ・小学校6年生男子 1種目/8種目 女子 1種目/8種目 ○小学校6年生で2.5m以上泳げる児童の割合 64.3% 前年比-3.7%
点検による事業の課題	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (具体的な課題及び取組) ・7月中に12回の泳力育成水泳教室を実施するために6月24日から始めざるを得なかったが、水温が上がらず、水泳教室としては適していなかった。
教育委員評価	体格の向上は見られるが反面体力の低下は、本市の児童にも強く表れているようである。全市を挙げての業間運動の実施等、発想を転換しての対策・工夫等思い切った改善策を図る必要がある。また教師の指導力強化も図っていく必要がある。
学識経験者意見	事業を継続することで、本市児童の体力増進に努めて頂きたいと思います。少し視点を変えてみると、児童・生徒の運動部等への所属の有無やその活動等により、体力における差異が生ずる可能性が考えられます。加えて学校の統合のため、学校が遠距離になり、歩いて登校できない生徒がスクールバスや保護者の車で登校していることが、体力低下につながっていませんか。また、休み時間や放課後の外遊びなどを通して積極的に体を動かすことで、運動習慣が定着することも考えられます。その他、朝食の摂取状況や睡眠時間、あるいはテレビの視聴時間など、運動以外の生活習慣も体力との関連性が考えられることから、規則正しい生活を心掛けることも体力増進に向けての大切な要素と考えられますので、併せて指導されることが望ましいと思います。

I 【教育環境の整備】

(3) 学校施設耐震化等事業

方針・目標	建築後43年が経過し老朽化した校舎の改築工事を実施し、適切な教育環境の実現を図る。
目標値	船川第一小学校の改築
事務事業の実績	<p>・船川第一小学校校舎棟大規模改修工事 (H27年5月25日～H28年2月29日)</p> <p>【主な改修工事の内訳】</p> <p>屋根・外壁・窓・内壁・床改修・トイレ洋式化・給排水設備・照明器具更新・暖房設備更新(ガス化)</p>
点検評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>(説明)</p> <p>児童の安全を配慮しながら、工期の中で順調に工事を進める事ができ、安全な学校生活を送るための整備を図る事ができた。</p>
点検による事業の課題	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>(具体的な課題及び取組)</p> <p>・H28年度には、耐震診断の結果、耐震化が必要とされた船川第一小学校屋内運動場の改築及び、建築基準法の改正により、落下防止対策が必要とされた北陽小学校屋内運動場吊り天井撤去工事に取り掛かる予定である。これら工事を終えるにより、市内全学校施設の耐震化が図られる事となる。</p>
教育委員評価	今後も児童・生徒が安全な学校生活を送る事が出来るよう、教育環境の整備に努めて欲しい。また、自然災害が頻繁に起こっている事から、地域と学校とが連携した防災マニュアルの作成も必要と思われる。
学識経験者意見	<p>学校施設は、地震等の災害発生時にも対応できる安全性の確保と、応急的な避難場所としての役割も併せ持つことから、十分な耐震機能を確保することが必要となります。さらに、老朽化による機能低下の改善、多様な学習活動に対応した学習空間の整備、子どもたちの安全を確保する防犯対策等の質的改善も課題となっています。一方、地球温暖化対策として温室効果ガス排出量の削減が全世界的な課題となっており、学校施設を改修する際には、耐震や老朽対策に併せて、可能な限り環境に配慮した学校づくりを行うことが重要であると考えます。また、全国平均43.3%に止まっている洋式便器の設置率ですが、今回改修内容に盛り込まれていることはありがたいことです。</p>

II 【地域間交流の機会充実と国際交流の推進】

(1) 男鹿・春日井市児童交流学習事業

方針・目標	昭和62年から始まった本事業は、平成27年度で29回（男鹿市児童の春日井訪問は26回）を数える。両市の代表児童が、3泊4日の日程で相互に訪問し、交流校における学習会、ホームステイ、市長表敬訪問、文化・歴史施設等において宿泊体験学習を実施する。
目標値	①体験活動や交流会に楽しく参加して友情を深めるとともに、思いやりの心を積極的に態度で表すことができるようにする。 ②多くの友人や人との交流に際し、進んであいさつするとともに、相手や場に応じた言葉づかいや行動ができるようにする。 ③交流先の文化遺産、自然等にふれ、改めてふるさとについて考えを深めることができるようにする。
事務事業の実績	平成27年度は春日井市訪問団（春日市児童38名、引率6名）が平成27年8月4日～7日に来市した。市長表敬訪問、美里小児童との交流会、本市児童宅でのホームステイを実施し、両市の児童が体験活動を通して交流を深めた。その他、五里合中石梨畑、男鹿市ジオパーク学習センター、なまはげ館・なまはげ伝承館などを見学し、秋田・男鹿の自然と文化を体験する活動が展開された。 男鹿市訪問団（男鹿市児童19名、引率4名）が平成27年10月16日～19日に春日井市を訪問した。春日井市立篠原小、高森台小においての交流学習、市長表敬訪問、児童宅でのホームステイ、春日井まつり、名古屋城やトヨタ産業技術記念館などの歴史施設・産業施設見学を実施した。訪問交流校では、本市代表児童による秋田・男鹿の文化・歴史・自然等についての発表や、伝統行事「なまはげ」の実演など、訪問の目的に沿った活動が展開された。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る
	(説明) 訪問児童は、見学先において、代表的な産業や歴史について学ぶとともに、ホームステイや交流校における人々とのふれあいを通して、人と人とのつながりやふるさと秋田・男鹿について見つめ直す機会となった。訪問後に、交流学習の記録を男鹿市交流学習感想文集「春日井の思い出」にまとめた。
点検による事業の課題	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他
	(具体的な課題及び取組) 学校数（春日井市38校、男鹿市7校）の差が広がり、本市でのホームステイ受け入れ家庭の確保が困難となっている。
教育委員評価	思いやりの心を育てるなど、人間形成を育み視野を広げ、外の世界を意識できる学習・体験の場であり、子どもたちにとって得るものは大きい。高く評価している。ホームステイ受け入れ家庭の確保は以前から問題視されている。市内の公共施設での宿泊も検討してみてもどうか。
学識経験者意見	春日井市は男鹿市の面積の38.5%であるのに対して、総人口が10.7倍で歴史も風土も産業も全く異なります。両市における、生活習慣や価値観の違いであろう児童交流学習事業による、他の文化や風習に触れる学習は、意味あることと考えます。更に、自分の住んでいる「男鹿」について再発見する機会となることが期待され、大変意義深い事業だと考えます。

II 【地域間交流の機会充実と国際交流の推進】

(2) 国際教養大学との交流事業

方針・目標	<p>平成22年に、本市と国際教養大学との間で「国際交流に関する協定」を締結した。本協定に係る連携プログラムの目標は、次のとおりである。</p> <p>①留学生との交流を通して、小・中学生が外国語や外国の文化について理解を深めるとともに、国際感覚を身に付けた人材の育成を図る。</p> <p>②ホームステイを通して、留学生と一般市民の相互交流を深めるとともに、留学生が男鹿の自然・文化・歴史等に触れる機会とする。</p> <p>③国際教養大学との連携により、本市が目指す「観光交流都市」づくりの取組を進めるとともに、その取組を広く市民・県民に発信することで、本市の活性化に資する。</p>
目標値	小・中学生が外国語や外国の文化について理解を深めるとともに、国際感覚を身に付ける。
事務事業の実績	<p>①学校で交流会を実施 市内全小中学校で、今年度は年1回、2時間程度の交流を実施した。複数名の留学生が学校を訪問し、積極的にコミュニケーションを図る態度や実践的コミュニケーション能力の育成を目指して、各校の計画に基づいて実施した。参加した留学生は、延べ64名である。</p> <p>②留学生との英会話教室の実施 7月31日(金)に5・6年生7名、中学生2名、留学生9名が参加して実施した。男鹿の名所を英語で紹介するなど子どもたちは楽しんで活動することができた。</p> <p>③国際教養大学への訪問 冬季休業中の1月8日(金)に実施し、市内小・中学生の希望者20名(小学生12名、中学生8名)が参加した。</p>
点検評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>(説明) 小学校では外国語活動との関連を考慮して活動内容を工夫したり、下学年との交流を企画したりと、各校が工夫して交流会に取り組んだ。また、中学校では、英語授業との関連を図りながら、留学生を効果的に活用していた。</p>
点検による事業の課題	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>(具体的な課題及び取組) 年1回ではあるが、継続することによって、子どもたちは、英語を通じて交流することに抵抗感を感じなくなった。英会話教室は、他の行事と日程が重なり、参加者が少なくなっている。</p>
教育委員評価	英会話教室の参加者が減少しているのは残念である。小学校3年生から英語教育が始まる中で、留学生との交流は、大変有意義なことである。事業実施にあたり、目的はもとより学生の皆さんにも趣旨を理解して頂きながら、学生による趣旨実現のプログラムの提案など、学校と学生との連携を密にして、より効果的な場を設定して頂きたい。貴重な体験の場であり、今後の交流事業に期待したい。
学識経験者意見	現在日本では、グローバル化が進み、国際感覚を育む教育が進められています。そのために必要なこととして、語学をマスターすることや、インターネット等を使いこなすことは必要な条件となります。しかし、それはあくまで手段であって目的ではありません。「自分の意見をはっきりと言う」ことや「論理的思考を身に付ける」ことが、最も大切であると考えます。国際教養大は、まさにそのことを勉強しに来ている学生達の集団ですので、その姿勢や考えに触れることは、大変意義のあることだと思います。

Ⅲ【生涯学習の推進】

(1) 地区公民館施設改修等事業費補助事業

方針・目標	地域内の住民の生活文化の振興、社会福祉の増進に資することを目的とする公民館、地区会館等施設の維持のための改修を支援する。
目標値	予算の範囲内で、地区の改修要望に最大限対応する。
事務事業の実績	平成 27 年度 予算額：2,500,000 円 補助金交付決定：13 件 補助金交付額：2,499,000 円 改修内容：屋根張替、屋根塗装、外壁補修、トイレ水洗化、水回り改修等
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (説明) 市内各地域の公民館、地区会館等は老朽化が進んでいるものが多く、その維持のための改修が不可欠となっている。 毎年 10 件以上の申請があり、予算の範囲で対応している。 補助金額は、総工費 10 万円以上の改修工事について、50 万円を上限とし、地区世帯数に応じた補助率を乗じて算出(千円未満切捨て)する。
点検による事業の課題	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 (具体的な課題及び取組) 改修を希望する地区が多数の場合、これまでの実績を考慮し、新規の修繕を優先して交付決定していることから、継続または交付実績のある地区については、施設の改修箇所などを確認しつつ、交付しない場合もある。
教育委員評価	地域の人々に活用しやすく、仲間づくり、街づくりの拠点の場所となるように支援を続けていただきたい。今まで以上に、精査し、補助金交付を決定して頂きたい。また、改修・改善にあたり、子供が活用できることも視野におくことが、より活用範囲の拡大や、地域の子供と大人との交流にもつながるものとする。
学識経験者意見	以前、町内会は住民の自治組織であり、同時に行政機構の末端組織としての機能がありましたが、年代によらず要・不要論が二分しているようです。しかし、災害の絶えない日本国に住む私たちにとって、地域の安全・安心、災害時の共助、弱者への配慮への拠点となる、公民館や集会所の維持への補助は不可欠だと思います。併せて地区の老若男女が助け合い、寄り添って楽しく暮らすことが最高の幸せです。そのための環境整備今後も継続をお願いします。

Ⅲ【生涯学習の推進】

(2) 第28回秋田船方節全国大会

方針・目標	本市の代表的な民謡として知られる秋田船方節の正しい保存伝承と普及を図るため、県内外の民謡愛好家による全国大会を開催する。
目標値	全国大会として、一般の部、熟年の部、年少者一部、年少者二部の4部門の競技会を実施する。
事務事業の実績	<p>◇第28回秋田船方節全国大会開催</p> <p>一般の部予選会・決勝会、熟年の部決勝会、年少者の部決勝会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時 平成27年11月15日(日)午前8:00～ ・場所 男鹿市民文化会館 ・主催 秋田船方節全国大会実行委員会 <p>事業決算 2,159,499円 (うち市補助金1,473,000円)</p>
点検評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>(説明)</p> <p>大会出場者98名(前回108名)</p> <p>年少者一部20名、年少者二部13名、熟年の部32名、一般の部33名</p> <p>観覧車数370名(前回362名)</p> <p>大会規模としては例年並みの規模</p>
点検による事業の課題	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>(具体的な課題及び取組)</p> <p>秋田船方節全国大会は、芸術文化活動の裾野を拡大し、郷土の文化を次世代に繋ぐため、開催しており、年々、年少者の部の出場者が増加している。今後更に、民謡教室や三味線教室等の開催を通して民謡に対する理解や関心を深められる活動の展開に努める。</p>
教育委員評価	<p>地元の特色である民謡等の伝承活動は、地域おこしに繋がるものと思われる。児童・生徒への普及活動と同時に地域の指導者の積極的な協力体制についても考えて頂きたい。年少者の参加が増えているのは喜ばしいが、一般の参加者や観覧者増を図るための創意工夫をお願いしたい。</p>
学識経験者意見	<p>大変貴重な文化です。真摯な取り組みにより年々年少者が増えている事は喜ばしいことです。子どもが減少している今日、さらなる対策としてふるさと教育の一環として幼稚園、保育所での体験はどうでしょうか。若年層の掘り起こしの必要性を感じます。</p>

IV 【生涯スポーツ活動の推進】

(1) 男鹿駅伝競走大会

方針・目標	昭和 27 年、故高松宮殿下の「八望台」命名記念とあわせ、男鹿の観光振興、地域経済の発展を目的に開催する。全国駅伝界を代表するチームも参加する歴史と伝統のある大会である。
目標値	一般 64 回、大学 47 回、高校男子 57 回、高校女子 15 回となる大会を実施する。
事務事業の実績	◇平成 27 年度 男鹿駅伝競走大会 一般 64 回、大学 47 回、高校男子 57 回、高校女子 15 回 ・期日 平成 27 年 7 月 4 日（土） ・場所 男鹿市内各コース ・主催 男鹿市（一財）秋田陸上競技協会 男鹿市教育委員会 秋田県高等学校体育連盟 〇秋田魁新報社 事業決算 8,995,239 円（うち市補助金 6,500,000 円）
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (説明) 大会参加チーム数（申込） 一般 46（棄権 1 含む）、大学 9、高校男子 49（棄権 3 含む）、高校女子 23（オープン参加 2、棄権 3 含む）、計 127 チーム
点検による事業の課題	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 (具体的な課題及び取組) 伝統ある大会で市民にも親しまれており、本市における夏の風物詩ともいえる。大会の運営については、ボランティア等の人材確保が今後も課題となる。
教育委員評価	ボランティアの人材確保は、大会の運営にも大きな課題である。年度初めにボランティア会員（体育・スポーツに関する）を募り、登録者の組織作りを図ってはどうか？会員らのスポーツ活動に関心を引き出すような支援策があってもいいのではないか。また、沿道での応援増加を図る事に力を入れて欲しい。
学識経験者意見	伝統ある大会となり、男鹿市民はもとより秋田県民の注目度も高くなってきています。最近では高校・大学、共に強豪校も多く出場するようになってきており、各校の今大会の位置付けもアップしているようです。また、チーム力の強化のための大会とも捉えているようで、更なる拡大が期待できます。同時に、男鹿市の観光や地域経済の活性化にも大きく寄与できる事業と捉え、市民ボランティアの協力を仰ぎやすい仕組みの模索と、マスメディア等を活用した情報発信が必要であると考えます。

V【芸術・文化・伝統の保護・継承】

(1) 史跡脇本城跡 城歩き・シンポジウム開催事業

方針・目標	史跡脇本城跡について、専門家に分かりやすく解説してもらうことで、脇本城跡の魅力を確認すると共に、広く一般の方にも身近に感じてもらい、整備基本計画にある4つの方針「学ぶ・守る・活かす・癒される」を推進する。
目標値	歴史好きに限らず一般の方が参加しやすい城歩き、シンポジウムを開催する。城への興味を高めるため、城に詳しく著名な講師を招へいする。
事務事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中世山城の著名な専門家による、わかりやすく、城の魅力を最大限に引き出す説明の実現。 ・史跡脇本城跡案内人（案内ガイド）や関係団体（脇本城址懇話会）との事前協議と対応。 ・城関係スマートフォンアプリ「発見！ニッポン城めぐり」とのコラボレーションにより全国的な周知、参加者の確保。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (説明) <ul style="list-style-type: none"> ・内容の検討、講師等の調整等、開催に係る全ての事務について、事前に完了することができた ・城歩きは定員100名を大幅に上回る232名の申し込みがあった。特に県外の参加者が多く城の周知につながった。 ・専門家の説明手法を学び、職員、案内ガイドの技術向上につながった。
点検による事業の課題	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 (具体的な課題及び取組) <ul style="list-style-type: none"> ・定員を上回る申し込みがあったため、参加者を抽選で決定した経緯があり、要望に応えるため継続的に実施する必要がある。 ・史跡保存整備事業で実施する説明板等のハード整備と共に、既存の案内ガイドの技術向上等により充実した見学環境を整える必要がある。
教育委員評価	これまで専門家の講演や史跡整備担当者からの報告など、史跡整備の様々な方法や活用の在り方が示された事に高く評価したい。城歩きツアーに多くの参加者があった事は関心を寄せる人が多くいる事であり、講演も夢の膨らむものであった。また、地元民に「城」のことをよく知ってもらうことも重要であると思う。
学識経験者意見	地味ではありますが、定員を大きく上回る事業となりました。最近では「城ガール」という言葉が付くほど、城や城跡巡りは、女性の間でもブームとなっているようです。かつてその場所で城を築き、暮らし、戦った人々に思いを馳せ「現地赴き型」とも言われている、女性の方々をも取り込める企画も一考かと思えます。そのためにも、知的欲求にも応えられるパンフレットの充実や、駐車設備等の環境整備、そして「男鹿半島・大潟ジオパーク」とのコラボレーションも検討して頂ければと考えます。

V【芸術・文化・伝統の保護・継承】

(2) 日本ジオパーク再認定審査

方針・目標	4年に1度の日本ジオパーク再認定審査に際し、大潟村や関係団体、審査委員との円滑な協議、相談を行い、再認定を受ける
目標値	再認定（4年） ※再認定審査結果には、上記ほか、条件付再認定（2年後再審査）、不認定がある
事務事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・男鹿半島・大潟ジオパークの良さや4年間の実績を最大限にアピールできる審査コース選定と委員との円滑な質疑応答の実現 ・ガイドの会や大潟村、関連団体との事前協議と対応の実現 ・地方創生交付金を用いた、ジオサイト等への説明板設置、案内アプリ公開 ・再認定審査を受けるに当たり、提出する『現況報告書』の作成
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (説明)・再認定審査に係る全ての事務について、再認定審査前に完了することができた <ul style="list-style-type: none"> ・審査結果は「再認定」を得ることができた ・再認定審査では、教育や保全等に関する活用面で高評価を得た (2016年1月29日付、第25回日本ジオパーク委員会審査結果報告書)
点検による事業の課題	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 (具体的な課題及び取組) <ul style="list-style-type: none"> ・再認定審査は4年に一度あり、次回は平成31年の予定である。そのため、より質の高い取り組みを今後も進めていく必要がある ・上述の報告書で指摘された課題等については、それらを解決するため『アクションプラン』を平成27年度末に日本ジオパーク委員会へ提出しているため、計画的に事業を進めていく必要がある
教育委員評価	再認定を得ることができ、特に教育に関する活用面で高評価を得たことは素晴らしいことである。ジオパークについて、その価値や魅力、取組等をもう少し市民に理解してもらう必要がある。また、分かりやすい映像等を駆使した企画の開発をお願いしたい。
学識経験者意見	ジオパーク推進のキーワードとして、保全・ツーリズム・ジオガイド・普及啓発活動・教育活動等が挙げられますが、他にジオストーリーの構築が挙げられると考えます。子ども向けモデルコースにある「城と武将とお寺さん」や「男鹿のナマハゲ」等のストーリーを更に充実させ、大潟村とのタイアップを積極的に推進して欲しいと考えます。また、自分が立っている場所が地学上（歴史上・地理上）等どんなところかを知ることは大変興味深いものがあります。説明の際、聞き手の年齢に応じた展開を工夫すれば関心はもっと高まると思います。